

令和 4 年度
事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

学校法人松山ビジネスカレッジ

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

学校法人松山ビジネスカレッジの歴史は、昭和 21 年に洋裁に関する知識や技術を修得した洋裁師を養成するために設立された松山洋裁女学院にさかのぼる。

昭和 41 年 12 月、学校法人山本学園設立。昭和 51 年以降、松山女学院ドレスメーカー専門学校、松山デザイン専門学校、松山歯科衛生士専門学校を開校するなど、時代の変遷とともに移り変わる社会的な要請にもとづき、新たな分野の学校を開校し、職業と密接に関連した専門教育を実践してきた。

平成 25 年 4 月、学校法人山本学園から学校法人松山ビジネスカレッジへ法人名を変更。平成 26 年 4 月、学生が横断的にカリキュラムを選択することが可能で、フレキシブルに学ぶことができる学校を目指し、学校及び学科の統廃合を含めた大幅な見直しを行ったことなどから、現在の 3 校 6 学科体制に至っている。

令和 2 年 10 月には、学校法人松山ビジネスカレッジと学校法人河原学園は「アライアンスパートナー契約」を締結し、お互いの強みや得意分野を活かして地域における教育の質をより向上させ、社会で活躍できる人材を育成していく体制を構築した。

「豊かな教養と高度な専門性を持った人材育成」、「学生が主体的に学ぶ授業」、「対話を重視した教育」、「地域との調和と共存」の 4 つの教育理念のもと、「きびしく、やさしく、ていねいに」を教育方針として、76 年の歴史と伝統を継承しつつ、実践的かつ実務的な授業を行ってきた結果、卒業生は総数 15,000 人を超え、地元愛媛はもちろん日本国内だけでなく海外においても、プロとして幅広い分野で活躍している。

今後についても、学校法人松山ビジネスカレッジは、現代社会において必要とされる学科・専攻・カリキュラムを備えた専門学校づくりに全力で取り組み、豊かな人格とプロとしての専門知識・技能を持った人材を育成していくことで、微力ながら地域の発展に貢献していきたいと考えている。

(2) 学校法人の沿革

昭和 21 年	3 月	松山洋裁女学院を松山市花園町に設立
昭和 23 年	4 月	松山洋裁女学院 設置認可
昭和 32 年	10 月	杉野学園ドレスメーカー女学院の指定校となる
昭和 41 年	12 月	松山技芸専門学校を吸収合併
昭和 41 年	12 月	学校法人山本学園設立
昭和 43 年	3 月	松山市一番町に校舎落成
昭和 46 年	7 月	各種学校松山技芸専門女学院 閉校
昭和 49 年	10 月	各種学校松山デザインスクール 開校
昭和 51 年	4 月	松山女学院ドレスメーカー専門学校、松山デザイン専門学校 開校
昭和 55 年	4 月	松山歯科衛生士専門学校 開校
昭和 61 年	4 月	松山コンピュータ専門学校 開校
昭和 62 年	3 月	準学校法人相原学園を吸収合併

- 昭和 62 年 4 月 松山情報ビジネス専門学校 開校 (松山タイピスト専門学校を変更)
- 平成 3 年 3 月 松山市辻町に校舎落成
松山コンピュータ専門学校、松山デザイン専門学校を移転
- 平成 7 年 4 月 松山医療福祉専門学校 開校
- 平成 14 年 9 月 松山市竹原に校舎落成 (松山医療福祉専門学校を移転)
- 平成 21 年 7 月 一番町校舎全面リニューアル完成
- 平成 22 年 3 月 松山医療福祉専門学校 閉校
- 平成 25 年 4 月 学校法人山本学園から学校法人松山ビジネスカレッジへ法人名変更
- 平成 26 年 3 月 松山デザイン専門学校、松山情報ビジネス専門学校を統合のため閉校
- 平成 26 年 4 月 松山女学院専門学校から専門学校松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校へ校名変更 (女学院とデザインの統合)
松山コンピュータ専門学校から専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校へ校名変更 (コンピュータと情報ビジネスの統合)
- 平成 29 年 4 月 松山歯科衛生士専門学校を辻町校舎へ移転
- 令和 2 年 10 月 学校法人河原学園とアライアンスパートナー契約を締結
- 令和 4 年 4 月 専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校から松山デザイナー専門学校へ校名変更 (ファッションビューティ学科をファッションクリエイター学科 (3 年制)、ファッションビジネス学科 (2 年制) へ学科編成を変更、総合デザイン学科を Web クリエイター学科へ変更) し辻町校舎へ移転

(3) 設置する学校・学科・専攻等

設置する学校	開校年月	学科・専攻等	摘要
松山デザイナー専門学校 (松山市辻町 1-33)	昭和 51 年 4 月	ファッションクリエイター学科 ファッションデザイナーコース パタンナーコース ファッションビジネス学科 ショップマスターコース スタイリストコース ファッションビューティ学科 ファッションデザイン専攻 ファッションビジネス専攻 ネイル・メイク専攻 ファッションビューティ研究科 Web クリエイター学科 Web クリエイターコース	
専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校 (松山市辻町 1-33)	昭和 61 年 4 月	情報システム学科 システムエンジニア専攻 ゲームクリエイター専攻 情報システム研究科	

		医療ビジネス学科	
松山歯科衛生士専門学校 (松山市辻町1-33)	昭和55年4月	歯科衛生学科	

(4) 学校・学科の学生数の状況

令和4年5月1日現在 (単位:人)

学校名		入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
松山デザイナー専門学校	ファッションクリエイター学科 ファッションビジネス学科 ファッションビューティ学科 ファッションビューティ研究科 Webクリエイター学科	90	145	42	
専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校	情報システム学科 情報システム研究科	75	140	14	
松山歯科衛生士専門学校	歯科衛生学科	40	120	124	

(5) 役員概要

令和5年3月31日現在
定員数 理事5名 監事2名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	河原成紀	非常勤	令和2年10月理事・理事長就任
常務理事	松岡由紀子	非常勤	令和2年10月理事・常務理事就任
理事	河原次瞭	非常勤	令和2年10月理事就任
理事	芦田宏直	非常勤	令和2年10月理事就任
理事	室利幸	非常勤	令和3年4月理事就任
監事	宮部高至	非常勤	平成24年12月監事就任
監事	山本秀人	非常勤	令和2年10月監事就任

(6) 評議員の概要

令和5年3月31日現在

定員数 11名

氏名	主な現職等
河原成紀	学校法人松山ビジネスカレッジ理事長、学校法人河原学園理事長
河原次瞭	学校法人松山ビジネスカレッジ理事、学校法人河原学園学園長
松岡由紀子	学校法人松山ビジネスカレッジ常務理事
室利幸	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園広報部長
芦澤昌彦	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園教務部長
中村亮	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
大川隆英	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
露口武志	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
河端浩美	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
高橋良昌	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
岡田善雄	学校法人松山ビジネスカレッジ管理本部長

(7) 教職員の概要

令和4年5月1日現在 (単位:人)

区分	本部	松山デザイナー 専門学校	ビジネス校	歯科衛生士校	計	
教員	本務		6	3	4	13
	兼務		22	6	39	67
職員	本務	12	1		1	14
	兼務	1		1	1	3

(8) 施設等の状況

所在地	施設等	面積等	摘要
愛媛県松山市一番町 (一番町校舎)	校地	725.27 m ²	松山デザイナー専門学校と本部(管理本部)が一部使用
	校舎	204.45 m ²	
	校地(駐輪場)	130.24 m ²	
愛媛県松山市辻町 (辻町校舎)	校地	1,090.90 m ²	専門学校松山ビジネスカレッジビジネス校と松山デザイナー専門学校と松山歯科衛生士専門学校と本部(進路指導部)が使用
	校舎	2,338.81 m ²	
	校地(駐車場)	66.29 m ²	

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

令和4年度は、創立76年の歴史と伝統を基礎とし、「豊かな教養と高度な専門性を持った人材育成」「学生が主体的に学ぶ授業」「対話を重視した教育」「地域との調和と共存」の教育理念のもと、面倒見の良い教育を徹底し、自立した職業人材を輩出するための地域にな

くはならない専門学校を目指して活動を行った。

令和4年4月から「松山デザイナー専門学校」としてスタートし、辻町校舎への集約に伴う教職員間の情報共有と業務効率化を進め広報面・教務面ともに順調なスタートが切れるように全教職員で取り組んだ。また、一番町校舎活用による収益事業において法人の経営基盤を安定させ、教育環境の整備・充実や教職員の処遇改善に努めた。

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

① 広報活動

令和4年度からスタートした松山デザイナー専門学校「ファッションクリエイター学科(3年制)」、「ファッションビジネス学科(2年制)」、「Webクリエイター学科(2年制)」の3学科の認知度向上と、既存の松山歯科衛生士専門学校「歯科衛生学科(3年制)」についてパンフレット配布に加え、WEB広報(ホームページ内容のリニューアル、各学科のSNSによる情報発信等)を行うとともに、高校内ガイダンスや会場ガイダンスへの参加、見込みの高い高校を優先した訪問活動など高校生との接点機会を増やし成果につながる活動を徹底的に実施した。また、オープンキャンパスは、開催回数を増加、遠隔地参加者への交通費補助制度を活用し、参加者増加を目指した。

こうした活動の結果、令和5年度入学2校3学科の募集実績(研究科を除く)は、ファッションクリエイター学科8名、ファッションビジネス学科17名、Webクリエイター学科15名、歯科衛生学科43名、4学科合計83名(前年比6名増加)となった。

② 教育活動

【松山デザイナー専門学校/専門学校松山ビジネスカレッジビジネス校】

令和4年度からスタートした「ファッションクリエイター学科(3年制)」、「ファッションビジネス学科(2年制)」、「Webクリエイター学科(2年制)」の3学科において、新しいカリキュラムによりプロフェッショナルを育成できるよう運営管理に取り組み、コンテストやコンペ、学園祭、松山コレクション等アウトプットの機会を増やし技術力・表現力を高める活動を行った。

学生一人ひとりの個性を生かしつつ、知識・技術のレベルアップや社会で必要とされる実践能力の習得や資格取得、関連企業就職率100%の達成に向けて、出席率・小テスト・宿題の実施状況・各種検定結果・学生の知識や技術レベルの結果等を教職員間で共有しきめの細かい指導を徹底した。

【松山歯科衛生士専門学校】

新カリキュラムの開講に伴い、これからの歯科衛生士に求められる「歯科衛生過程」の実践力を身につけさせ、その結果を発揮するための症例検討の場を設け、発表を通じて学生全体の意識と科学的思考力を向上させる指導を行った。

小テスト・宿題体制を含め1年次からの成績管理を徹底し、国家試験出題基準の改定に対応した国家試験対策を実施した。

③ 就職支援

キャリアセンターと教員が連携し、各学生の成績、職業能力、志向性を評価するとともに、就職活動に付随するビジネスマナー、履歴書・エントリーシートの作成、面接、筆記試験対策等の指導を行った。

また、校内企業説明会、企業見学、インターンシップ等を計画的に実施し、学校で身に付けた専門分野の知識や技術、技能、資格を発揮できる業種・企業等に就職できるよう学生の指導、支援を行った。

(3) その他

- ・新型コロナウイルス感染症防止対策として、ワクチンの職域接種を実施するとともに、学生への注意喚起や指導を継続的に実施した。

以上